

# アフターコロナにおけるマスク着用について — 状況要因および個人特性による検討 —



伊藤南々・村上萌衣



## 着想の経緯・目的

新型コロナウイルスが流行している現在、マスクをすることが当たり前になっている。屋外など一定の条件下ではマスク着用が必要とされなくなったが、現在もマスクを着用している人が多い。

アフターコロナでもマスクを着用し続ける人が多いと考えられ、どのような状況でマスクを着用するのか知りたいと考えた。

**【目的】**  
アフターコロナでのマスク着用可能性について状況要因と個人特性に着目して検討する

## 調査1(アンケート調査)

### 目的

コロナ後、マスクの着用が必要なくなった場合のマスク着用可能性について、

- 様々な状況を想定して、**状況要因**を検討する
- マスク着用に影響を与える**個人要因**を検討する

### 方法

- 対象者：本学学生94名（平均年齢=20.8歳、SD=0.59）
- 調査方法：WEBアンケート
- 調査時期：2022年12月5日～6日の2日間
- 調査内容：

#### ① マスク着用可能性について

→ **感染力** × **場面** × **記述的規範** = 12種類の各状況で、マスクを着用するかどうかを4件法で尋ねた。

- **感染力**：弱条件(新規感染者0)・強条件(新規感染者1,000)
- **場面**：就活(圧力高)・ゼミ(圧力低)
- **記述的規範**：周りのマスク着用率9割・5割・1割
- ③ **新型コロナウイルス恐怖尺度**(Midorikawa et al.2021) 7項目4件法
- ④ **同調志向尺度**(横田ら,2011)8項目5件法
- ⑤ **文化的自己観尺度**(高田,2000)10項目5件法
- ⑥ **対人不安感尺度**(岡林,1991)14項目5件法
- ⑦ **現在の屋外でのマスク着用状況について** 5件法

### 結果・考察

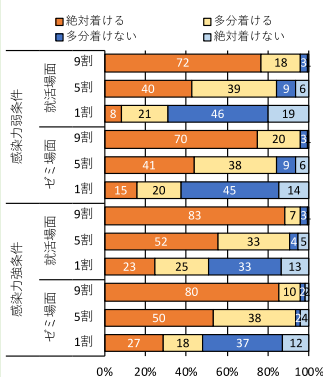


図1. 各状況のマスク着用可能性  
(注)就活場面は同調圧力強場面、ゼミ場面は同調圧力弱場面に該当する。データラベルは人数を示す。

### 考察

**9割のとき**：周囲の人たちのマスク着用率が上げれば、それらの人々に**同調して**マスクを着用する。

**5割と1割のとき**：着用率が高かったのは、同調によるものというよりも、**新型コロナウイルスへの恐れ**によるものでは？

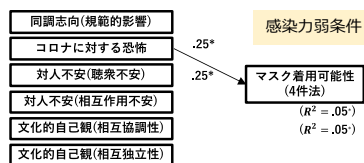


図2. 記述的規範1割でのマスク着用要因 (注)上の値が**就活場面**、下の値が**ゼミ場面**、\* $p < .05$ .

### 【図1より】

#### 記述的規範9割

→ 記述的規範に沿った結果。

#### 記述的規範5割と1割

→ 周囲の人々の着用率を大きく上回った。

### 【図2より】

「**コロナ恐怖**」が高いほどマスクを着用する。

## 調査2(行動観察)

### 目的

一般の方が、マスクの着用が必要ない屋外で、どのくらいマスクを着用しているのか、その実態を観察。

### 方法

- 調査場所：街中(北四番町付近)と住宅街(桜ヶ丘内)
- 調査時期：2022年12月20日15時～16時
- 調査項目：①マスクの着用有無 ②年齢 ③性別
  - ④一緒に通行している人数
  - ⑤メガネの着用有無 ⑥通行手段

### 結果

- 観察した人数：236名
- マスク着用
  - あり:202名(85.6%)
  - なし:34名(14.4%)
- **8割ほどの人がマスクを着用**
- マスクの着用に男女差があり、**全年代で男性より女性の方が着用している**

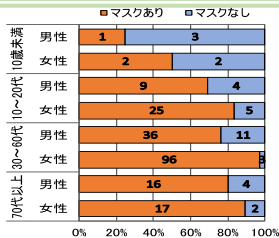


図5. 行動観察に基づく性別・年齢別・マスク着用状況

### 考察

- 現状では、周囲にマスクを着用している人が多く見受けられるため、その人々に**同調して着用している**と考えられる。つまり、**マスクを外した際の他者の目を気にしている**のではないか。
- **女性の方がコロナへの危機意識が強い**(孫珠熙ら,2022)ことがわかっており、こうした意識から女性の着用率が高くなったと考えられる。

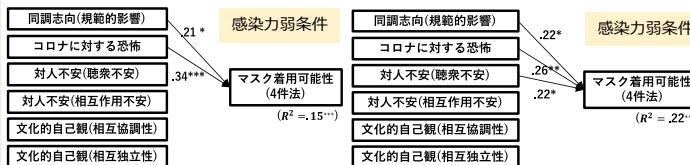


図3. 記述的規範5割でのマスク着用要因 (就活場面)  
(注)\*\* $p < .001$ , \* $p < .05$ .

図4. 記述的規範5割でのマスク着用要因 (ゼミ場面)  
(注)\*\* $p < .001$ , \* $p < .01$ ,  $p < .05$ .

### 【図3・4より】

同調志向の規範的影響とコロナに対する恐怖が高いほど、マスクを着用する。

加えて、ゼミ場面のみ**対人不安の聴衆不安**が高いほどマスクを着用する。

### 考察

周りに合わせたいと思う人ほどマスクを着用すると言える。**就活場面**は、相手が見ず知らずの他者であり、形式張った場面であるのに対し、**ゼミ場面**は、顔見知りの相手に向かってスピーチをするものであり、さほど形式にこだわらない場面であるため、人前での不安や緊張を隠すために気軽にマスクを着けることができると認識されていたのではないだろうか。

## まとめ

記述的規範による違いのみが明らかとなり、**周囲のマスク着用率が高ければ、同調してマスクを着用する**と考えられる。記述的規範が5割・1割の規範が曖昧、認められない際には着用率を大きく上回る結果となり、個人要因として「**コロナに対する恐怖**」がマスク着用率を高めることがわかった。**アフターコロナでは、周囲の着用率が下がれば、着用しなくなる人がいる一方で、「コロナ恐怖」が影響し、一定数着用し続ける人がいる**